

## 南三陸診療所ボランティアの報告

私は7月19日から22日までの4日間宮城県南三陸町ベイサイドアリーナ付近にある診療所において調剤業務を行ってきました。ベイサイドアリーナに最も近い駅のある気仙沼線は津波の影響によって駅はもちろんのこと線路までもが流されてしまったため仙台駅からバス、タクシーを乗りついで2時間近くかけて現地に到着しました。途中までは家屋も倒壊しておらず、瓦礫もまったくなかったのですが、タクシーで山を越えた途端に瓦礫の山が広がり震災や津波の恐ろしさを改めて感じました。

診療所では主に調剤、投薬を行いました。薬局では志津川病院の薬剤師2人とボランティア2人が業務を行い、時々地元の薬局薬剤師2人が手伝いに来ていただき最大6人で業務を行いました。調剤室はだいぶ整理整頓され、分包機も導入されていたので一包化や粉薬の分包も可能でした。コンピューターで薬袋や薬情、お薬手帳用のシールも印字できるようになっており、手早く調剤する手助けになったかと思います。ただ、診療予約は午前と午後に行っていますが大多数の患者が午前中に来るため午前中は待合室がいっぱいになりました。多いときには20人近くが待っていたときもあったかと思います。コンピューター入力、調剤、投薬と各自手分けをして業務を行いました。それでも回らないくらい患者が一気に押し寄せて大変でした。患者は待合室に入りきらないので廊下に並べてある椅子にかけて待っていたり、後から薬を取りに来たりそれぞれ工夫はしていましたがそれでも午前中は待合室がいっぱいのときがほとんどでした。

診療所の薬剤師、看護師、そのほか医療スタッフ全員がすごく親切かつ丁寧に対応していただきとても充実した1週間を過ごすことができました。みんなすごく穏やかで被災していろいろ大変なこともあるかと思いますが、そんな部分はまったく見せず常に前向きに頑張っている姿が印象的でした。患者も診察開始時間の1時間以上前から行列を作るくらいすごい人数が並んでおり、診察を終えた後の薬局ではきっと長時間待たされて疲れていたと思いますが、それでも文句や不満はまったく言うことなくむしろ好意的に接してくれていたかと思います。唯一、年配の方は方言でしゃべることが多く、私の話すことを向こうは理解してくれるのですが、向こうの話すことを理解できなかったことが残念でした。地元の薬剤師は時に方言を混ぜて話したり、時間のあるときにはお互いの状況を気遣って話をしたりと地元ならではの気遣いが見られて、患者と医療スタッフの距離がとても近く素敵だなと思いました。

今回は4日間みのボランティアでしたが、そのなかで本当に多くの人に支えられながらとても充実した時間を過ごすことができました。私にできることは限られてしまっていますが、その中でも自分でできることを日々行っていきたくと思いました。この度はこのような貴重な経験をさせていただきありがとうございました。